

仮題「アジア地域における国家間競合の特質—広州アジア大会を素材にして—」

○101202 産経「強化も体制も危険水域」

中国が史上最多の金メダル 199 個を獲得。スポンサーは 53 社、協賛金は 30 億元(約 375 億円)以上 (*これは 2006 年ドーハ大会の約 5 倍、02 年釜山大会の 3・5 倍)。12 年ロンドン五輪の実施競技で獲得した金メダル数は 126 個。韓国が金メダル数で 2 位 (アジア大会の金メダリストには兵役免除の特典も)。日本は 3 位。08 年に稼働した味の素ナショナルトレーニングセンターは、施設利用料の 3 分の 1 を選手側が自己負担。

「東アジアは来夏、大がかりなスポーツイベントでにぎわう。中国・上海では水泳の世界選手権、韓国・大邱では陸上の世界選手権が開かれる。韓国は 14 年に仁川で、次回アジア大会のホストを務める」「五輪を呼ぶ力と、その国の競技力向上は不可分の関係にある。2 月のバンクーバー五輪では、カナダがそれを証明した。過去 5 年間に組まれた強化予算額は 1 億 1800 万カナダドル(約 99 億円)にのぼり、同国の冬季五輪史上最多となる金 14 個を獲得した」

「日本オリンピック委員会 (JOC) は近く、17 年冬季アジア大会の開催地として、札幌市と帯広市に立候補を要請する」「『世界 5 位』を掲げるロンドン五輪まで 1 年 7 カ月、『世界 3 位』を目指すリオデジャネイロ五輪まで 6 年」

○101130 産経「ロンドンへ立て直し急務」

男子 400 ㉞リレーは北京五輪で銅メダル。昨年の世界選手権でも 4 位に入賞。「バトンの受け渡しという技術的要素がからむリレーは、日本の短距離界が世界と張り合える唯一の“看板”種目」「文部科学省の『マルチサポート事業』で、男子 400 ㉞リレーが今年度から新たに支援対象となったのも、この種目が日本の短距離を支える命綱だから」

「日本選手権、パンパシフィック選手権という 2 つの山を越えた競泳陣には息切れ感があつた。・・・中国はパンパシに少数の選手しか送らず、広州に照準を合わせて調整」

○101130 日経「『地元選手』に偽り？揺れる国体」

「国体は今でも毎年 2 万 5000 以上が参加する国内最大のスポーツ大会」。次回大会を開く山口県の一部選手の参加資格に疑惑が発覚 (今年の千葉国体に参加した山口県選手と指導者の計 35 人が、現住所を県内としながら、拠点を県外に置いて活動)。「大会開催に伴う経費が大きな財政負担となるにもかかわらず、開催県は天皇杯獲得にメンツとプライドをかけて無理な強化策を展開する。不毛な競争に、いいかげんに歯止めをかける時期が来ている」

国体の参加規定：成人選手は①居住地となる現住所がある②勤務地がある③ふるさと選手制度を活用して登録した出身地、のいずれかに該当する都道府県からしか出場できない。

「問題の背景には、国体開催地の天皇杯獲得が事実上のノルマとなっている現実がある。人口が少なく、選手層も薄い弱小県がどうしても総合優勝を果たせるのか。全種目に予選免除でフルエントリーできるアドバンテージはあるが、8位以上しか得点は加算されない。開催が決まった自治体は本番の数年前から年間5億～10億円をかけて選手、チームを強化する。…▽数年ごとに所属県が変わる“渡り鳥選手”の存在は何十年も前から知られていた」

「現代のアスリートは指導者や施設がそろった地域に集中する」「特定の県の選手になる約束をしても、簡単に引っ越すわけにはいかない。居住実態のない補強選手が増えるのも当たり前だ」「最終的には国体参加規定を見直すことになるのだろう。都道府県対抗という国体の根幹にかかわる問題だけに、事態は深刻である」

「事実上47都道府県の持ち回り開催のため、施設整備や大会運営で巨額な出費を強いられる開催自治体の多くは渋々と引き受けている」

「国体活性化プロジェクト」が来年春までに提言をまとめる。将来的には地域のスポーツクラブの対抗戦のような大会として位置付ける方向も。

国体開催地の天皇杯獲得：「1964年新潟国体から今年の千葉まで47年間で夏、秋の本大会の開催地以外が総合優勝したのは2002年の高知国体だけ。(*高知県に対して)文部科学省や日体協からは『英断』を評価する意見が多かったが、以降は再び元の状態に戻った」
「開催自治体に続く総合2位はほとんど東京都が占めている。02年の総合優勝も東京だった」

○101130 毎日「アジア大会で見えたもの<1>」

中国・広州で開かれた第16回アジア大会。「インドなど新興国の台頭や、国境を超えて流動化する指導者たち、ビジネス化を図って五輪入りを狙う競技など新しい動きもある」

ロイター通信の記者「アジア大会は中国の国内大会みたいではなかったか」「中国は08年の北京五輪で金メダル51個を獲得して、米国や旧ソ連などに代わって世界のスポーツ大国にのし上がった。全国の体育技術学校を軸に優秀な選手を集める有名な強化策に加え、経済の急速な発展を背景に…」

「ただ、2年前と異なるのは、五輪や世界選手権に出場する『競技スポーツ』に加えて、市民へのスポーツの普及を強調したことだ」

「バスケットボール会場となった広州国際スポーツアリーナは、3階までで1万7000人の観客席。…陸上会場の奥体スタジアムは、…8万人を収容した」

「今大会中、アジア大会の開催をめぐるのは、競技を削減したいアジア・オリンピック評議会(OCA)と開催地の間で対立が起きた」「オイルマネーが支えになった前回のドーハ大会に続いて、広州が巨大市場という資金力をバックに拡大路線を貫いた」